

うつのみやまちづくり市民会議 第2回合同会議 議事録

会 議 の 名 称	市民会議（第2回合同会議（第5回全体会） 教育文化振興分科会）
開 催 日 時	平成19年2月23日（金）午後6時から8時
開 催 場 所	宇都宮市役所 14階 大会議室
出 席 者	（市民委員）伊澤，大塚，加藤，金田，鈴木，鶴見，福士 （庁内部会） （市事務局）
会 議 内 容	・策定本部における検討結果についての意見交換
会 議 資 料	1. 策定本部における検討結果
発言者	発言内容
市	・ 資料説明【重要度の高い項目】（省略）
市民委員	（親学について） ・ 手法やプロセスが課題である。共育ちというような親子一緒に子育てのノウハウ，社会性，しつけを学ぶ機会を作ることが重要である。 ・ 個人の生涯のライフイベントに応じて，市が学習の機会を作ったらいと思う。
市	・ 子育てについては，幼稚園，保育所，在宅保育それぞれで行われている。在宅保育をしている方にはなかなか支援が行き届かない。親学については，市も重要度を認識しており，日曜日に幼稚園を使って，親子での体験を行っている。
市	・ 生涯学習センターでも皆さんの協力を得て，親の社会性を高める親学を行っている。
市民委員	・ 場がないと進まない。わかりやすく具体的な案内がほしい。
市民委員	・ 親学は親が気づきを得るもので，親子ペアで親子で見直すことが重要である。3歳までに修正できれば，その後もきちんと育てられる。
市	・ 親子が体験しながら感じられるようなカリキュラムを工夫している。
市民委員	（内なる国際化の対応について） ・ 外国人への対応について市全体で適切に行われていない。
市	・ 問題意識は一緒である。ある地域では充実しているが，そうでない所もある。市全体で網をかける必要がある。これまでは外の国際化が主体で秘書課が担当していたが，今後は内なる国際化が重要との認識で体制も次年度から市民生活課で対応することとなる。
市	・ 内なる国際化については，市全体横断的なテーマであるので，総合計

	画では共通する部分で扱いたい。
市民委員	(青少年対策) ・ 青少年対策については縦割りでっており、一体的ではない。また、35 歳までとしているが、年齢制限を上にすることも検討してほしい。グループのネットワーク化や出会いの支援は継続性が欲しい。
市民委員	(協働の進め方) ・ 青少年対策や地域の子供たちの居場所づくりなどいくつかの事項については部横断的な共通の課題がある。庁内でチームを作って、地域と話し合いを持って対応してほしい。
市	・ 総合計画策定でも庁内チームで集まって考えている。放課後子供プランも学校協議会と話し合いながら策定している。
市民委員	(地域の子供たちの居場所づくり) ・ 学童保育であるが、狭いスペースで子供が増えている。指導員が不足している。報酬が見合わないからだ。親も困っている。
市	・ 2007 年問題で団塊の世代が退職する。多くは社会に役立ちたいと考えている。もう少し地域に入りやすいようにサポートしてあげたい。
市民委員	(外国人の人権問題について) ・ 外国人の子供で学校に行かないので、生まれながらに母国語のない子供が増えている。見えない所で信じられないことが起きている。
市	・ 日本人や外国人ネットワークのないところではなかなか対応が難しい。
市民委員	・ まずは市が外国人ネットワークの中で支援できる人を組織化し、一緒に支援することが重要なのではないか。
市民委員	(地域からの協働) ・ 私の関わっている協議会では、小学校 6 年生が地域ボランティアとして地域活動をしている。ジュニアボランティアチームや仲間づくり推進チームもつくる予定である。このような動きを各地で進めることが重要だと思う。
市民委員	・ 地域が子供を育てることとなる。
市民委員	・ 教育について、次期総合計画ではそこが最大のテーマではないだろうか。